



- ① 島民や民間事業者の合意形成を支援したことで、**出島振興のあり方をビジョンとして明確化**
- ② 出島振興ビジョンの策定により、個別事業の具体化に向けた方向性を**官民連携で決定する運営体制**を構築

<令和4年度の取組成果>

- 架橋に向けた町庁内横断のプロジェクトチームを編成し、架橋に向けた行政課題を整理。
- マリンアクティビティ（SUP）の実証実験を実施し、フィールドとしてのポテンシャルと架橋に向けた産業・にぎわい創出に向けた課題を整理。
- 官民連携により出島振興について検討する「出島振興協議会」を組成。

<今年度（令和5年度）の取組成果>

- 出島振興協議会の設立・活動から民間事業者や地域おこし協力隊の着任による活動が加速化。
- 本土からの来島者をターゲットとしたツアー型の実証実験を行い、継続的な活動可能性を確認。
- 島民・民間事業者・行政が協働し、出島振興協議会が島民の海や出島に対する想いをもとに取組方針・施策を取りまとめた。さらに、出島のアクティビティスポット利用に向けたマップを作成。
- 移転元地利活用の具体化に向け、来島者受け入れ体制の整備面から方策を検討。

<今後の方向性>

- 出島振興ビジョンに基づいた**個別の振興施策や事業の推進・展開**。
- 個別の振興施策や事業の推進と合わせた移転元地の**ハード整備内容の具体化と事業推進**。

所在地：宮城県女川町

主な用途：観光方面の利用で検討

（公衆トイレ、駐車場、更衣室・シャワー室など）

■ 位置図



1. 目的と背景

移転元地を含めた架橋後の島全体の継続的な振興策の検討

- ・ 女川町の有人離島である出島の出島地区及び寺間地区の漁港周辺に点在する約 4.3ha の移転元地が対象。一部は漁協支部に貸し出しているが、多くは未利用地。
- ・ R6 年 12 月には本土と出島を結ぶ橋が完成。増加が見込まれる来島者の受け入れ体制及び、観光振興面での準備不足が憂慮されていたため、「未利用地の有効活用」と「振興施策の策定」の両軸による取組が必要。
- ・ R4 年度は、官民連携組織である出島振興協議会を立ち上げるとともに、SUP 実証実験、島民アンケート調査により、マリンアクティビティの可能性や架橋後の環境変化、観光振興に対する島民の意識を把握。
- ・ R4 ハンズオン支援をきっかけに民間団体の機運が醸成され、出島振興に取り組む一般社団法人が立ち上がった。さらに、地域おこし協力隊が着任し、共に活動。
- ・ それらを踏まえ、**移転元地の利活用を含めた振興ビジョンの策定とハード整備の具体化、持続可能な運営体制の構築が必要**。

出島地区



寺間地区



出島架橋現地の状況(R6 1/31)



出典：女川町 HP

2. 取組にあたっての課題

昨年度から町と組成した出島振興協議会等による振興策の検討が始動したが、以下の課題がある。

- ・ 令和 4 年度に実施した島民アンケートや、マリンアクティビティ (SUP) 実証実験を踏まえ、**具体的な出島振興策を示していくための「出島振興ビジョン」の策定が必要**
- ・ **移転元地の活用方法の検討とハード整備の具体化が必要**
- ・ 官民連携組織で「出島振興協議会」が立ち上がったが、**出島振興における持続可能な運営体制の構築**について具体的な検討まで至っていない

3. 今年度の取組項目

令和 4 年度の検討を踏まえつつ、移転元地を含む島内のハード整備、持続可能な運営体制の構築などに向け、その基盤となる「出島振興ビジョン」の策定をより重要視し、以下の取組を実施。

I 継続的な観光振興を検証するための実証実験を検討・実施

- ・ 本土からの来島者をターゲットとしたツアー型の実証実験の開催
- ・ 出島の海洋資源を用いたツアー内容の検討と参加者からのフィードバック

II 出島振興ビジョンの策定

- ・ 島民や民間事業者、地域おこし協力隊との合意形成
- ・ 出島振興における持続可能な運営体制の構築
- ・ 令和 4 年度および 5 年度の検討結果を踏まえた出島振興ビジョンの検討

III ハード整備の具体化

- ・ 移転元地の活用方法検討と具体的なハード整備の検討

4. 取組経過や主な調整プロセス

6～8月 来島者をターゲットとしたパッケージツアー型の実証実験の開催による

島民サービスの継続的な活動可能性の検証

- ▶ 出島の海の資源を活用した観光ツアー (SUP、浜焼き、ビーチクリーン) において、島民が継続的に提供できるサービスの価格設定を検証。
- ▶ ツアー参加者に対してアンケート調査を行い、出島に対するニーズやパッケージツアーとしての設定価格について確認。

9～1月 出島振興における個別事業の土台となる部分や運営体制についての整理を行い、出島振興ビジョン素案として取りまとめ

- ▶ 民間事業者や地域おこし協力隊など、関係各所に対してヒアリングを実施し、個別事業として進展しているものを把握。
- ▶ 関係者間の合意形成を支援し、ビジョンの理念となる共通部分を確認。
- ▶ これまでの経緯や検討を踏まえ、行政・民間・島民でそれぞれの役割を確認し、出島振興における持続的な運営体制を確認。

2～3月 出島振興協議会での出島振興ビジョンについて合意形成・具体化協議

- ▶ 出島振興協議会において、出島振興ビジョンが承認される。
- ▶ 個別の振興施策や事業についての地元調整・検討を継続。
- ▶ 継続的に検討してきた移転元地の利活用について、来島者受け入れ施設の具体的な整備内容を検討。
- ▶ 海洋資源を観光資源として活用していくにあたり、自然環境の保全と維持管理費を確保する手法を実装に向け検討。 ※p5-4 図 1 参照



島民による浜焼き



ポイント①

島民や民間事業者の合意形成を支援したことで、**出島振興のあり方をビジョンとして明確化**



ポイント②

出島振興ビジョンの策定により、**個別事業の具体化に向けた方向性を官民連携で決定する運営体制を構築**

■ 出島振興協議会

民間メンバー及び庁内関係部署が協働で出島振興を協議

民間メンバーとして島民や島内の各団体が参画。また、庁内からはハード整備、産業振興、予算管理を担う各部署が参画し、それを事務局である企画課が取りまとめる。加えて、専門家の立場から助言及び提案を行うコーディネーターとして合同会社モノコトビトが参画し、出島振興協議会の体制を構築。

地域おこし協力隊は、協議会メンバーではなく個別事業の実践者の立場で出島振興に関わる。

実施主体（事務局）：

- ・ 女川町 企画課/産業振興課

連携部署：

- ・ 女川町 建設課/総務課

アドバイザー：

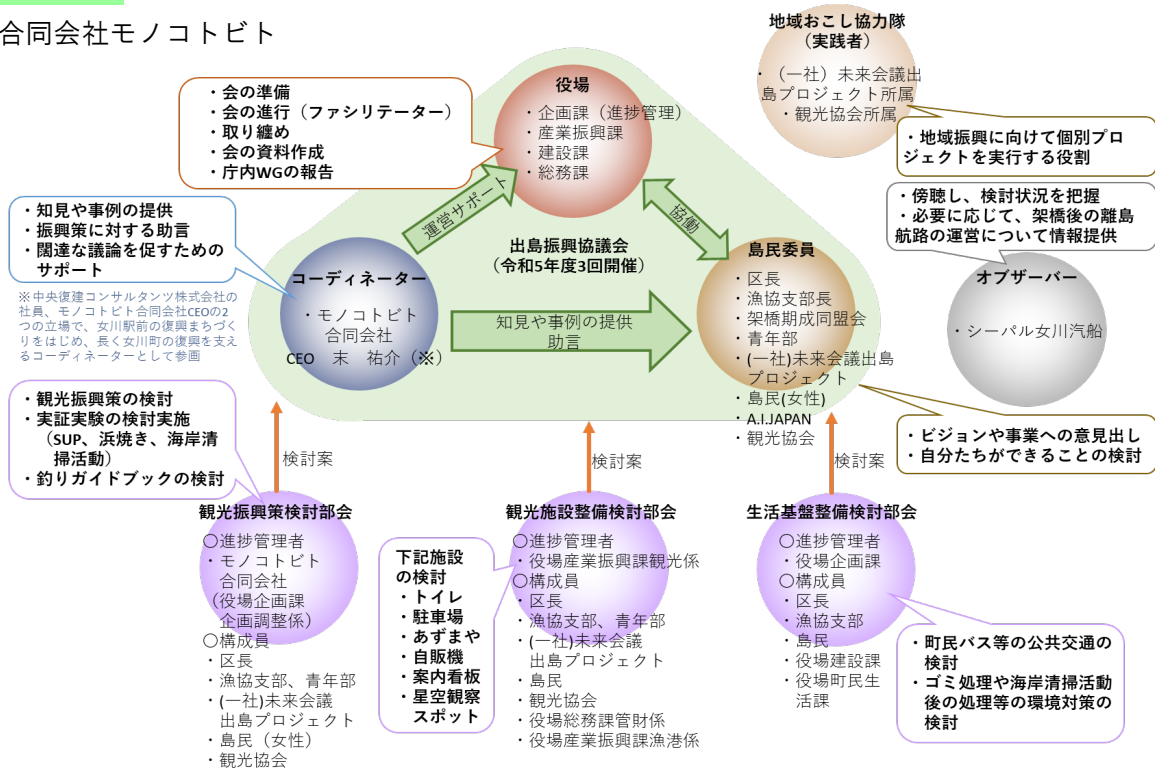
- ・ 合同会社モノコトビト

民間メンバー：

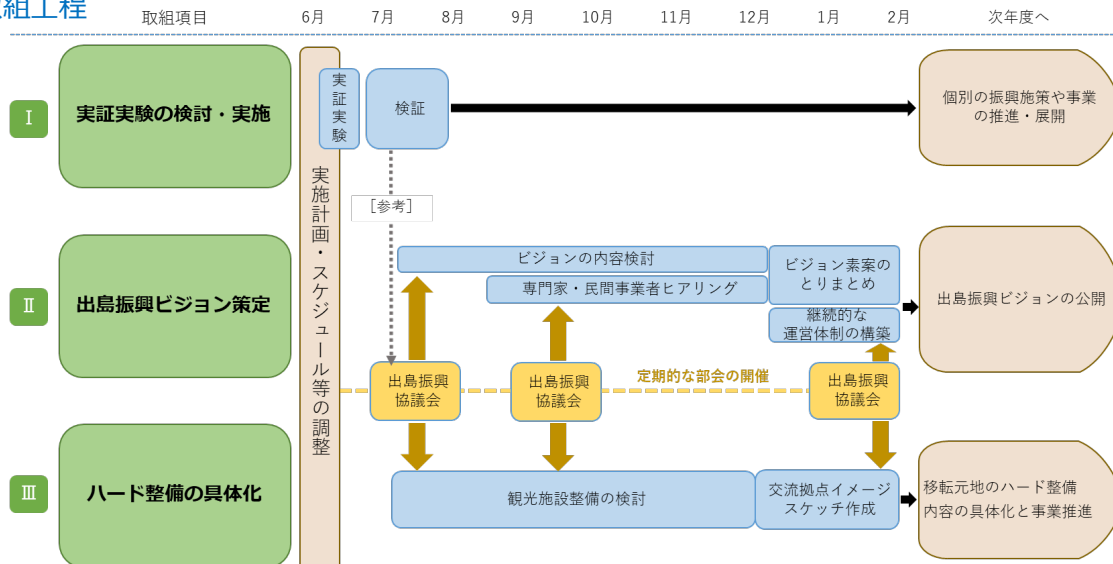
- ・ 出島/寺間区長
- ・ 出島/寺間漁協支部
- ・ 出島架橋期成同盟会会長
- ・ 女川青年部
- ・ (一社)女川未来会議出島プロジェクト
- ・ 島民女性代表2名
- ・ 観光協会 ほか

オブザーバー：

- ・ シーパル女川汽船(株)



■ 取組工程



1
2
3
4
5
6
7

■ 取組成果や重要な検討資料等



はじめに

- 出島振興ビジョンは、「女川町離島振興計画2019」の策定後に、島民や民間事業者、行政が出島振興について話し合ってきた結果を踏まえ、策定後の出島の将来像を取りまとめたものです。
- ビジョン策定にあたっては、島民協議会や出島振興協議会の議論、各種アクティビティの調査、各種団体の活動状況を参考にしました。
- 「出島の価値」は、島の魅力に心惹かれた誰もが、島民とのコミュニケーションや、島の魅力を活かした活動のチャンスを得られるような、「来るもの拒まず」の雰囲気にあります。
- この価値を活かして、本ビジョンに基づき、島民や民間事業者、行政が連携して出島の振興に取り組んでいきます。

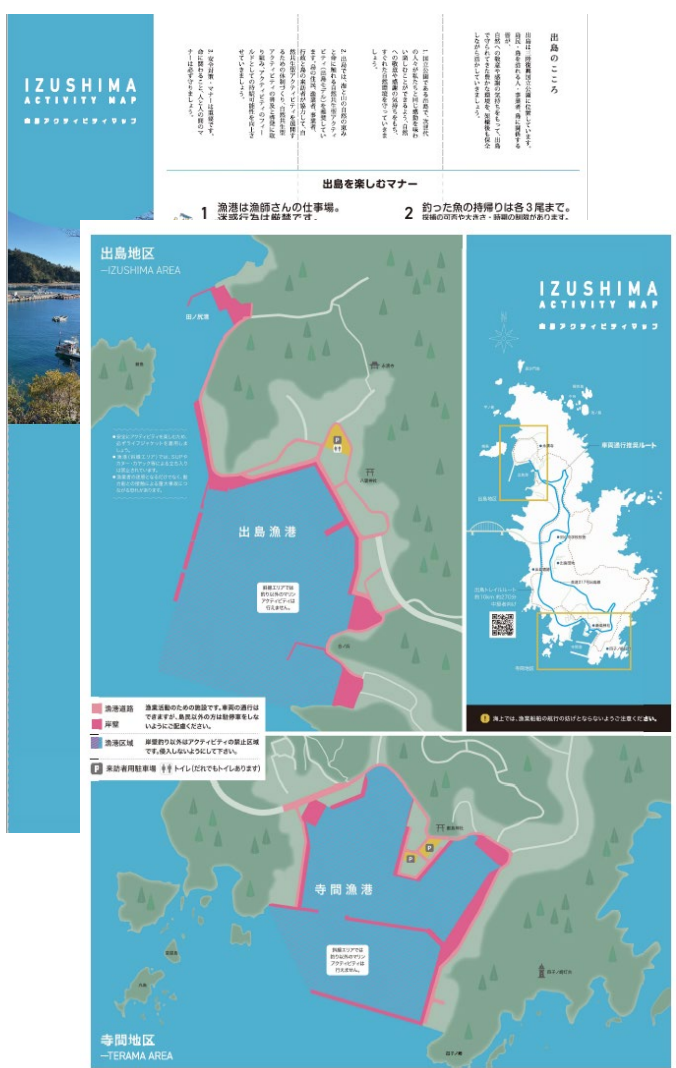


5 今後の出島振興の展開に向けて

出島振興の今後の展開イメージを
取りまとめた。

出島振興に取組む関係主体の役割分担

- 島民：「来るもの拒まず」のスタンスで島のルールを数える
- 民間：補助金に依存しない自主的な取り組み
- 行政：渡船入口の創出

出島を楽しむマナー

- 漁港は漁師さんの仕事場。遊覧船は船着き場です。
- 釣った魚の持帰り量は各3尾まで。従量制の取組が実施されます。

出島地区 -IZUSHIMA AREA-

寺岡地区 -TERAMA AREA-

出島漁港

寺岡漁港

出島地区の概要と活動スポットの位置関係を示すマップ。色分けされたエリア（漁港周辺、海岸線、出島地区、寺岡地区）と、釣場、トレイル、観音堂、観光施設などの位置が示されています。

図1 左：出島振興ビジョン 右：IZUSHIMA ACTIVITY MAP（案）

5. 今年度の取組成果

成果1 「出島振興協議会の設立・活動から民間事業者や地域おこし協力隊の着任による活動が加速化」

▶ 出島振興協議会設立をきっかけとし民間事業者や地域おこし協力隊による民間活動が加速。「出島振興ビジョン」に沿った個別事業の具体化が進行する見込み。

成果2 「本土からの来島者をターゲットとしたツアー型の実証実験を行い、継続的な活動可能性を確認」

▶ 島民が継続的に提供できるサービス内容を把握。ツアー参加者からの満足度も確認。今後のマリンアクティビティ具体化を後押しする結果を得られた。

成果3 「島民・民間事業者・行政が協働し、出島振興協議会が島民の海や出島に対する想いをもとに取組方針・施策を取りまとめた。さらに、出島のアクティビティスポット利用に向けたマップを作成」

▶ 島民・民間事業者・行政で合意形成を図り、海や出島に対する想いをもとに取組の礎となる理念を「出島のころ」として取りまとめ、出島振興に関する様々な取組や体制を「出島振興ビジョン」として取りまとめた。

▶ 先行して事業が進んでいる釣りやトレイル等のアクティビティについて出島利用の心得として「出島のころ」を記載したマップを作成。来島者に対し、出島振興の理念を共有。

成果4 「移転元地利活用の具体化に向け、来島者受け入れ体制の整備面から方策を検討」

▶ 移転元地の利活用について、来島者受け入れ体制の整備としてトイレ等の整備を検討。今後の具体的な維持管理や出島振興との連携について検討を進める見込み。

6. 今後の方向性

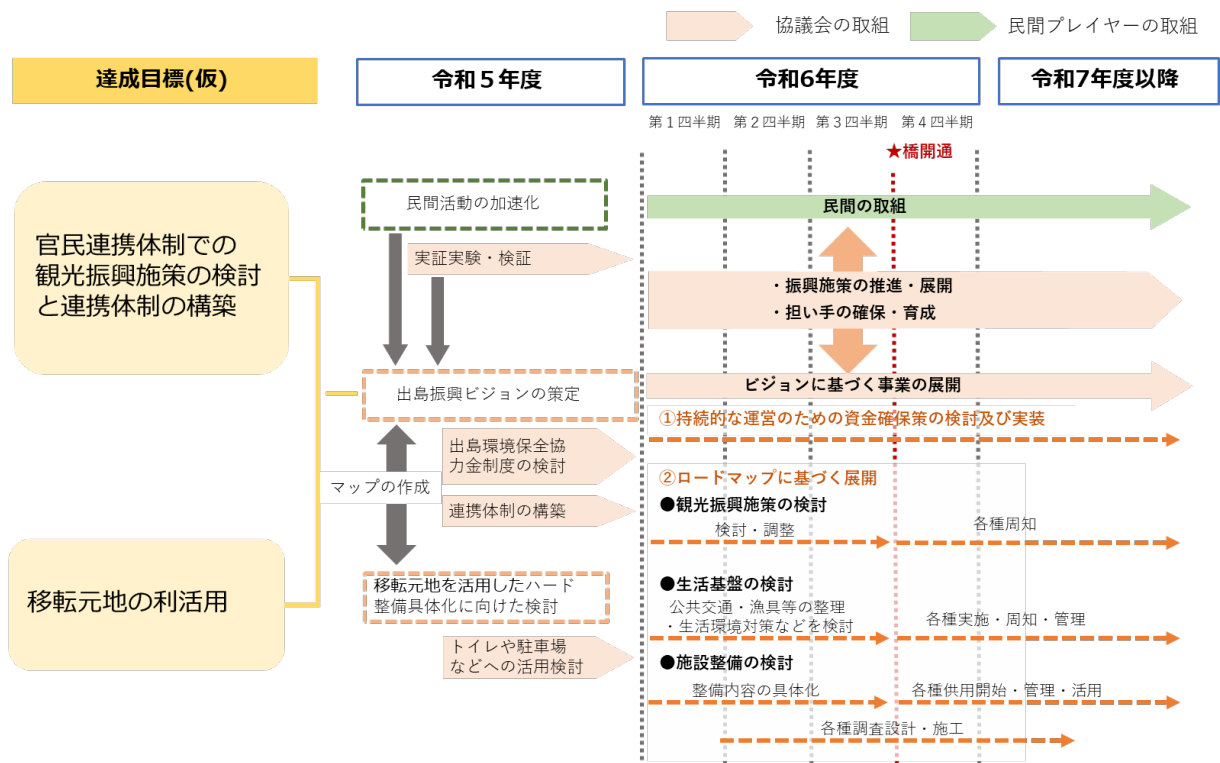
出島振興ビジョンに基づいた個別の振興施策や事業の推進・展開

- ・ 関係主体の役割分担に応じた施策検討および個別事業の具体化を行う。
- ・ 自然環境の保全と維持管理費を確保する手法として、持続的な運営のための資金確保策の検討及び実装。

移転元地のハード整備内容の具体化と事業推進

- ・ 来島者受け入れ施設の整備案について、具体化や維持管理の方法・主体について調整を行う。
- ・ 個別の振興施策や事業の推進と合わせて具体化な移転元地の利活用検討を継続。

中長期スケジュール・フロー図等



7. 取組主体・関係者の声

これまでの状況や今回の取組における工夫や苦労など

- ・ 施設整備について、地区ごとに求める施設機能や設置場所が異なり、スケジュール管理や関係者調整に苦労した。

ハンズオン支援事業で今回取り組んだ感想など

- ・ 観光実証試験事業の実施、出島振興ビジョンの作成支援（内容についてのアドバイス、他実施事例の情報提供等）をいただいたことにより、出島の現状や課題、出島振興に向けた取り組みの方針施策、今後の展開イメージについて取りまとめることができた。



女川町 企画課
木村利基 課長補佐